一般ポスター

郡 洋 平*

年次大会2日目に行われた一般ポスターセッションは、発表件数30件となった。また、技術進歩賞2件の発表も同時に行われ、合計で32件のポスターが並んだ。大会初日の特別講演でも取り上げられたナノカーボン材料のテーマをはじめ、特別セッション、一般セッションを問わず様々な分野からの発表が行われ、1件1件の発表に対し濃密で活発な意見交換がなされ盛況であった。

希望者を対象とした一般ポスター賞を、大学・企業・公的試験研究機関の審査員の方々に審査して頂いた。以下に選出された2件の発表者と題目を記す。

蜂須賀良祐氏（ライオン）：「ポリプロピレン射出片の破壊

挙動に及ぼす成形品厚みの影響」(P-09)

高光航平氏（日本ポリプロ）：「長鎖分岐ポリプロピレンと直鎖状ポリプロピレンの発泡特性と気泡形態」(P-12)

表彰式はB会場2F平安で行われ、伊崎委員長より受賞者へ記念盾が贈られた。

次回も様々な技術分野からのより多くの応募発表、セッション参加を望む。また、活発な議論を通じた研究進展と技術交流、そして新しい研究分野創出の場として本セッションが益々活かされていくことを期待する。

最後に本紙面をお借りし、セッションを遂行するにあたり、多忙なか、審査にご協力頂いた多くの関係者の方々に並びに活発な議論を交わして下さった聴講者の方々に深く感謝する。

* Koori, Yohei

出光興産株式会社 先進技術研究所 解析技術センター
市原市姉崎海岸 1-1 (〒299-0193)

特別授業

高 野 一 史*

特別授業は毎年好評であるため、座席数及び配布資料が不足していた。そこで、本年次大会では前日に集中して開催することにした。今回の年会大会スローガンである『先進成形加工 素材と技術のマリアージュ』をもとに、ナノコンポジット、射出成形、押出成形・CAEに加え、現在注目が高まっているセルロースナノファイバーにスポットを当て、計4件の授業が行われた。ナノコンポジットでは、豊田工業大学の岡本正巳教授より、「ポリマー複合材料の基礎、進化、現状の技術課題」というタイトルで授業が行われた。複合材料の基礎、進化についてわかりやすく解説いただき、現状の技術課題や基盤技術構築の重要性についてご講演いただいた。射出成形では、東京大学の横井秀俊教授より、「射出成形現象の可視化実験解析」というタイトルで授業が行われた。射出成形プロセスについて、実験解析事例の中から、金型内の外観不良現象にスポットを当てて解説いただき、この各種外観不良現象の生成プロセス

ならびにメカニズムの可視化実験解析結果についてご講演いただいた。押出成形・CAEでは、McMaster UniversityのJohn Vlachopoulos教授より、「Extrusion problem solving with rheology and CAE」というタイトルで授業が行われ、CAEとレオロジー特性の測定を組み合わせることで成形トラブル原因の解明について、フィルム、シート・パイプ成形事例を交えて解説いただいた。セルロースナノファイバーでは、東京大学の磯貝明教授より、「ナノセルロースの基礎と応用展開」というタイトルで授業が行われた。セルロース繊維からTEMPO触媒酸化反応を用いたセルロースナノファイバーの製造法についてわかりやすく解説いただき、現状の技術課題や用途開発事例についてご講演いただいた。

一昨年、昨年と、立ち見者と資料不足になるほどご好評であったことから、本年次大会では前日に集中して開催させていただいた。今後も高分子成型加工に関わる幅広い分野の授業企画を継続し、基礎的な知識獲得及び交流の場を提供できるようにしていきたい。

* Kohno, Kazufumi

大阪ガスケミカル㈱
大阪市此花区西島 5-11-61 (〒554-0051)